

# 先生方、学生による「本」紹介

テーマ：コロナ禍において時間ができた中で学生に推薦したい1冊



鈴木伸尚(文学研究科特任講師・教職カルテ担当)推薦

『学校でしなやかに生きるということ (第二版)』

石川晋、有限会社フェミックス、2016年

北海道の公立中学校で国語科教員として長年勤めてきた石川晋氏のエッセイ集。子どもと学校の現実に向き合い、現代社会でしなやかに生きるコツを垣間見させてくれる希少な一冊。コロナ禍でこれまでと異なる生活が強いられる中、しなやかに生きるとは？学校で働くことを志す人にもそうでない人にも手に取ってほしい本です。

久堀裕朗(国語国文学コース・教授)推薦

『上方文化講座 曾根崎心中』『同 菅原伝授手習鑑』『同 義経千本桜』

大阪市立大学文学研究科「上方文化講座」企画委員会編、和泉書院、2006・2009・2013年

文学部の特別授業『上方文化講座』を書籍化したものですが、これに限らず私が推薦したいのは、芸談を収録した本です。SNSやネットニュースなど細切れの情報に晒されて何か一つの事に集中しにくい今だからこそ、それぞれの芸に専念されているプロフェッショナルの方々の言葉、芸談の重みに耳と心を傾けてみてください。



『フォーラム人文学』編集学生スタッフ推薦

『フォーラム人文学』

大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構、2003年から毎年発行

毎年、支援機構の活動記録を中心に掲載している本冊子。特集記事ではその年の特色を捉えたテーマを扱うなど、市大文が1年間積み重ねてきた学びを確認するのに最適の1冊です。バックナンバーとの比較では、市大文の学びの沿革も迎えます。世界が様々な転換点を迎える今、まずは「市大文の学びの歴史」を確認してみませんか？

